

## COLUMN 南仏ニーム発祥のジーンズ

南フランスの古都ニーム(Nîmes)は、人口こそ15万人程度の中規模都市であるが、創建は古く、古代ローマ時代の紀元前2世紀にまで遡る。ローマ帝国に植民地化され長らく統治されていたが、その間交易都市として繁栄し、古代から中世、そして現代まで延々と長い歴史を刻んで来た。市街地周辺には古代ローマ時代に建設された歴史的な建造物がいくつも残され、中でもローマと同じ古代競技場コロッセオと、巨大な水道橋ポン・デュ・ガールは現代に残された建造物の中でもひととき異彩を放っている。

市内のコロッセオは保存状態に優れ、今でも夏になると施設内で闘牛やコンサート、演劇などが上演される。もうひとつの史跡であるポン・デュ・ガールは、市の北西20kmにあるローマ時代の巨大な水道橋で、その昔庶民に生活用水を供給し市民生活を支えた施設として大事に保存されている。古代ローマ時代の数ある遺跡の中でも壮大にして堅牢、長さ275m、高さ49mの3層から成る石橋の1番上の石段の上に恐る恐る立ってみると、迫力溢れる広大な自然美と整備された往時の精巧な石造建造物に圧倒され深い感動を覚える。

意外なことにこの長い歴史を誇る古代都市ニームには、今日世界中で多くの人々とつながっている身近な商品がある。それは男女を問わず、若者にもお年寄りにも愛用され、今や世界中で普段着として人気商品となっているデニム・パンツである。デニムは別名ジーンズ(JEANS)とも、俗っぽくジーパンとも言われる。そもそもデニムの謂れは、ニームが古くから綾織りの綿布生地生産地として知られ、そのニームの特産品である織物「cloth of Nîmes」の現地フランス語「serge de Nîmes」(ニーム産のサージ生地)に因んで「デニム」と言われるようになり、その後一般的に「ジーンズ」とも呼ばれるようになった。日本人が気軽に言う「ジーパン」とは、「ジーンズ・パンツ」の略ではなく、駐日米軍兵士(GI)が履いていたことから「Gパン」と言われたもので、これは単なる和製英語に過ぎない。

コニャックがコニャック地方で生産されたブランデー、テキーラがメキシコのテキーラ村で生産されたためにそう呼ばれるように、ニームで生産されたジーンズこそがデニムと呼ばれ、日本や中国製のジーンズは、デニムとは呼ばない。従って、ニーム及び南仏地方を旅する時には、日本や中国製のジーンズは極力避けデニムを履いた方が、土地っ子には歓迎されるであろう。(エッセイスト 近藤節夫)